

入社志望理由を思い出す

使用者委員 伊地知 司

私は、昭和44年の3月に入社しました。南国交通に入社した志望動機は今でも忘れられない出来事がありました。それは大学3年の福岡にいた時、アルバイト先に電話が入り「父危篤」の知らせ、その当時、親元で金を払えば飛行機に乗れるP・T・A制度なるものがあり夕方の便で帰って来いとのお知らせ、生まれて初めての飛行機でアツという間の50分で鴨池空港に到着、親父の死に目に会えたのです。

この時、ひらめいた事、それは「これからの世の中、こんな便利で早い乗り物の時代が到来するであろう」事を直感したのでありました。鹿児島でこの仕事のできる職場、それが南国交通でありました。

現在、入社試験で面接官として、面接をさせてもらっておりますが、「何故この会社に入りたいと思ったのですか?」「この会社で何をしたいですか?」といつも質問しております。みなさんは、当然これらの質問が出るであろうと答えの準備をしていたはずで、きっと今も覚えている事でしょう。そんな昔のことは忘れたと言うなら思い出してください。必死で答えたことですから大体の趣旨は思い浮かぶでしょう。

入社試験には筆記試験や適正試験もありますが、どこの会社でも面接試験が一番重視しているのは皆さんもよく知っている通りです。

その面接で皆さんは何を訴えたのか自分を面接官にどのような姿で見せ付けようとしたのか?実はあれは、試験用の姿でして等と言いつきは通りません。会社はそのあなたの姿に魅かれて入社して欲しいと申し出たのです。

惚れて口説いた其の時の姿を見せ続けなければならないのではないのでしょうか?それが会社に対する誠意であり覚悟です。

入社試験で何を言ったか、時々思い出すことも必要なことかも知れません。